

2021 特集
 聖堂聖別百周年を迎える②

新たに制作された聖堂聖別書

教会の聖別書が行方不明であるの
 でこのほど百年を記念して制作され
 ました。書家・河内利治（君平）氏
 （大東文化大学書道学科教授）の書
 です。

神ノ準拠ニ依リテ東京監督トナレル
 我ジョン・マキムハ全能ナル神ノ祐護ノ
 下ニ主降生一千九百廿一年四月十四復
 活後第二主曰ニ於テ日本聖公會ノ法規
 ニ従ヒ川越町ニ於ケル基督教會聖堂
 ヲ聖別シテ日本聖公會禮拜奉事ノ
 為ニ特ニ之ヲ備フルヲ告示ス

茲ニ本職聖別ノ第廿八年即一千九百
 廿一年四月十四川越町ニ於テ記名捺
 印シテ之ヲ證明ス

東京監督神學博士 ジョン・マキム
 日本聖公会北関東教区

第九代教区主教

主教ゼルバベル 広田勝一

煉瓦の聖堂を建てる

新しい礼拝堂の建設用地は190
 8年（明治41年）に購入準備され
 ていましたが、建物建設は遅々とし
 て進まず、毎回の教会委員会のテー
 マとして論議されておりました。

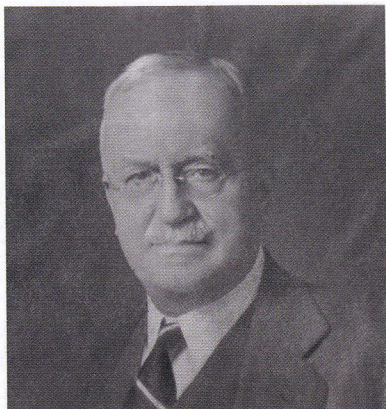
1916年（大正5年）3月の信
 者総会で待望の「新礼拝堂の建設の
 議」が決議され、6名の建設準備委
 員が指名されました。当初の計画で
 は建設費三千円規模の建物を想定し
 その準備は進められました。3年間
 に捧げられた募金額は812円。こ
 れに本町礼拝堂敷地売却費1000
 円が加算されても1812円の資金
 状況でした。前号でも紹介しました
 ように、新礼拝堂の建設を請願する
 田井正一師、ヘーウッド女史の米国
 聖公会機関誌を介して聖公会信徒の
 ピーターソン氏ご夫妻が多額な募金
 をくださり、総額18644円の建
 設事業となりました。

当時、立教大学をはじめ多くの聖
 公会の礼拝堂の建築を手掛けた米国
 マーフィ・ダナー社に所属したウイ



唯一残る設計図(青写真の一部)

ルソン氏の設計・監理のもと、清水
 建設が建設を請負いました。（これ
 に関しては清水建設のアーカイブス
 簿に記録が残されている）



聖堂建設の大恩人ピーターソン博士

赤褐色のレンガを用い、中世イギリスのチューダー様式の本格西洋建築物が完成しました。この礼拝堂が立つ地域は米穀問屋が立ち並ぶ蔵の街の中心地、町民の驚きは大変なものだったでしょう。1921年(大正10年)4月10日、マキム教区主教をはじめ多くの来賓を迎えて、新礼拝堂聖別式が行われました。これを伝える当時の教会誌に次のような記事があります。

「いと小さき仔羊の群れに対しこの壮大なる聖堂を与え給える主の広大なるご恩寵に対し誠心誠意感謝と讃美を捧げる」。

こうして多くの方々に支援されて与えられた聖堂でしたが、完成2年目に関東大震災、昭和6年の川越地方の地震と2度の災害に遭遇、追加の修理事業で見事元のように修復する事が出来ました。

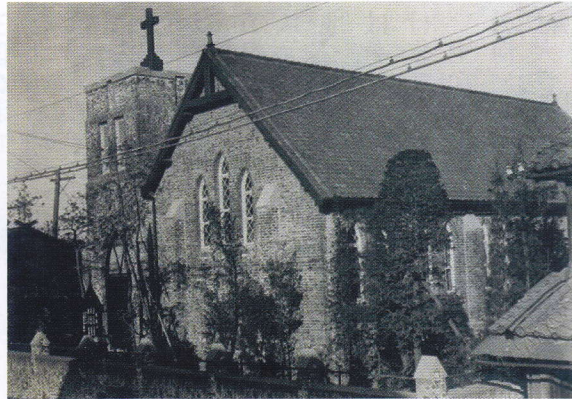
この礼拝堂の内部には各種の備品、調度品が備えられており、その多くが教会に関わる方々からの寄付、献品によるものです。祈祷台、聖歌番号表示版、大燭台、祭服用箆筒、そして近年では祭壇中央の十字架を故森紀旦主教、新しい聖鐘を故若宮信夫ご夫妻から捧げられています。

最後にこの教会を永く司牧された故松平惟太郎司祭の言葉に耳を傾けてみましょう。「川越教会の聖堂を

組み立てている一枚一枚の煉瓦に、教会百余年の歴史のうちに生きてきた先輩の祈りが込められているのだ。そして彼らの信仰の血が脈々とわれらのうちに流れているのだ」

資料保管委員会

パウロ 山本 元



完成当初の全景(屋根は日本瓦葺)

聖堂聖別書の再制作は

広田主教から「この教会の聖別書はありますか」という問いに全員が「？」これまで見たこともありませんでした。その後教会の至る所をさがしたが所在不明。そこで同じころ建てられた聖堂のうち、熊谷聖パウロ、弘前昇天教会からの聖別書を参考に今回の聖別書制作に至りました。